

2019/11-12

桜蓮寺報 41号

今後の予定

＊法話会

11月17日 14時～

法話…平野正信

持ち物 お布施・お念珠

＊11月のブツダカフェ



11月24日 昼1時～5時

参加費1000円

＊法話会・懇親会

12月29日 14時～

法話…平野正信

法話会後に懇親会を予定しています
お食事しながらお話ししましょう

今号の法語

南無阿弥陀仏は

ここにおられる仏さま

お釈迦さまは「浄土は遠く西方にある」と説かれました。しかし『観無量寿経』には「阿弥陀さまはここから遠くにおられるのではない」とも説かれています。

なぜなのでしょう？

以前「探偵ナイトスクープ」というテレビ番組に、ある男性からこんな依頼が届きました。

「自分の父は新婚五か月で出征し、レイテ島で戦死したが、父は母の胎内に既に自分が育まれていたことを知っていたのか、調べてほしい」という依頼でした。手がかりは母が遺した葉書のみですが、何度も読み返された葉書はボロボロ、鉛筆書きの文字は読解できません。しかし番組は葉書の復元に成功しました。その葉書には歌が詠まれていました。

「頼むぞと 親兄弟に求めしが
心引かるゝ 妊娠の妻」

この歌をよんだ途端、男性は泣き崩れてしまいました。父は確かに子である自分の存在を知っていたのです。葉書は三千キロの距離と数十年の時を超えて、男性に「自分を想ってくれていた父がいた」と知らせてくれたのでした。

人と人との距離は、その人を想う心の距離なのではないでしょうか。手紙を読んだ時、男性の胸には確かにお父さんが居たのです。心が届いたとき、父と子はおあったのです。反対に、たとえ毎日通る道で顔を合わせていても、電車で隣に座っていたとしても、心の通じていない人は近い人ではないでしょう。距離が近くても、想いをとけない人、受け取らない人同士は遠いのです。お互いにとって「特別なあなた」ではない人は遠いのです。

『観無量寿経』では、韋提希（いだいけ）という女性がお釈迦さまの前で「お浄土に生まれ阿弥陀さまに会いたい」と願ったとき、お釈迦さまは微笑み「韋提希よ、阿弥陀さまはここから遠くにおられるのではないのだよ」と説かれました。出あつてくれと願った阿弥陀さまと、出あいたいという韋提希の心が重なった瞬間を見抜かれたのです。

阿弥陀さまから届く南無阿弥陀仏は「あなたの苦しみ悲しみは全部知っているよ。あなたは私の特別なあなただよ。あなたのために私がいるんだよ。」という心の声です。

その声を聞くととき阿弥陀さまはここにおられます。阿弥陀さまと一緒にの人生を歩んでいきましょう。

【聖典のことば】

阿弥陀仏 此を去ること遠からず
（『観無量寿経』『註釈版聖典』91頁）

おしらせ

【布教研究課程】

今年の十二月から来年の三月まで布教研究課程という研修を受けることになりました。京都のご本山近くの伝道院で二週間ほどの泊まり込みの研修を三度受ける予定です。研修が終わるまでは桜蓮寺の活動が少し抑え気味になるかと思えます。

庵主のひとこと

【築地本願寺・ご縁さんフェスタ】

先日、築地本願寺で開催された「ご縁さんフェスタ」というイベントに『フリーペーパーののさま』のスタッフとして参加してきました。「ののさま」では、プラバン作りのワークショップをしました。大人は「懐かしい！」子供は「楽しい！」となかなか好評でした。

築地は観光地でもあるので仏教に馴染みない方々も沢山来られていました。今回のイベントがそういう方々にとっても良いご縁になれば良いなあと期待しています。

築地本願寺にはおしゃれなカフェもありインスタ映えするランチも好評です。東京に行くことがあれば是非立ち寄ってみてくださいね。

桜蓮寺報はブログでも公開中

経費削減のためPDFメールをおすすめさせていただきます。

shoushin0905@gmail.com



QRコード読み込
後「メール作成画面
はこちら」をクリック
してください。

得至蓮華藏世界 即証真如法性身
遊煩惱林現神通 入生死園示応化

親鸞聖人御真筆

【漢文】 得至蓮華藏世界 即証真如法性身 遊煩惱林現神通 入生死園示応化 (その2)

【書下】 蓮華藏世界に至ることを得れば 即(すなはち)真如法性の身を証せしむと 煩惱の林に遊んで神通を現じ 生死の園に入りて応化を示すといへり

おさらい 天親菩薩は一心(他力の信心)の利益を三つお示しにされました。それは ①現世で大会衆の数に入る利益 ②浄土で真如法性のさとりを得る利益 ③さとりをひらいたなら、迷いのこの世にかえり衆生を救うことができる利益、の三つです。

この中で前回までに見てきた①と②は「入」(お浄土に生まれさとるまで)の利益です。そして、今回見ていく③は「出」(さとつてから)の利益です。

煩惱の林・生死の園

「煩惱の林」とは衆生の内面です。人の心には、まるで熱帯雨林の植物のように煩惱がうっそうと茂っています。刈り取っても刈り取っても生い茂ることをふせぐことはできません。それが凡夫のありさまです。その凡夫が「生死の園」に生きています。生死は生老病死の略です。老いたくないのに老い、健康でいたいのに病になり、死にたくないのに死んでいくという定めを背負った境涯に生まれてきたのです。わがままに生きようとする私が、わがままの通らない世界に生まれ苦しみ、死んではまた生まれ苦しむという輪廻を繰り返してきたのです。

自覚・覚他・覚行窮満

その苦から脱出(解脱)するのが仏に成るということなのです。しかし「仏になるとことは、ただ自分の苦から抜け出すというこゝとだけではないはずだ。自分以外の苦も抜いてこそその仏ではないか」と考えるのが私たち大乘仏教徒の考え方です。

善導大師は

「仏とは、自ら目覚め、他を目覚めさせ、自らのさとりと、他のすゝくいとが極まり満ちている存在である」とされています。(『註釈版七祖』『観経疏』301頁)

慈悲と智慧の完成

仏になると慈悲と智慧が完成します。「あの人は慈悲深い」というように、慈悲は「やさしい」ということで、「あの人は知恵者だ」というように、智慧は「かしこい」ということです。極々簡単にいうならば、仏になるということとは「やさしさ」と「かしこさ」が極まるということです。

目の前で転んで膝小僧を擦りむき泣いている子供がいるとします。大人の私は、その膝小僧に薬を塗り絆創膏を貼ればその子が楽になると知っています。

知っているということは知恵があるのです。しかし、優しくないなら、子供に手を差し伸べることはしないでしょう。また「かわいそうに」と同情しても、自分の用事を優先して手当をしてあげないまま立ち去るなら、その人は

本当には優しくないのです。本当の優しさには行動が伴います。

目の前の子供の苦しみに真に共感し、知恵でもって実際に手当をしてあげる時、その人の「やさしさ」と「かしこさ」は本物になるのです。

ですから、「やさしさ」と「かしこさ」が極まってしまった仏さまは、一時もじっとしてなんて居られません。煩惱の林・生死の園の私のもとに飛んできて、常に慈悲と智慧を発揮して、私を導いておられます。

浄土真宗のさとりは止まったさとりでなく、ダイナミックに動き続けるさとりなのです。

遊び・神通を現じ・応化を示す

では、お浄土の仏さまは常に過労でクタクタなのでしょう？
いいえ、そんな心配は不要です。仏さまは衆生を嫌々救うのではなく、遊ぶように救うのです。

何にもとらわれず(遊)、想像できないほど軽やかに(神通)、私に合わせた様々な方法を用意して(応化)私を導くはたらきとなつてくださるのです。

仏さまは「あなたが幸せなら、私も幸せ」という想いで私にはたいてくださっています。そして、いつか私もそのような仏になり、有縁の人々を救うはたらきをさせていただけるのです。